

営農情報

第17号 平成28年8月2日発行

(水稻営農情報 病虫害防除)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 基本防除

病虫害防除所の調査結果によると、ウンカ類の発生量は平年より少ない状況となっています。ただし、秋に坪枯れ被害をもたらすトビイロウンカは、田植え時期やほ場毎の発生の差が大きく、箱施薬剤が施用されたほ場でも、移植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなります。ほ場における発生状況を把握し適期防除を行いましょう。

【ほ場でのウンカ発生量の確認方法】

ほ場の四隅から少し中に入り、マクラ地との境目付近を中心に、稲の株元近くを観察して下さい。株を叩いて、水面に落ちた虫を数える方法もあります。

◎本年は、下表のとおり8月17日から24日頃に防除を行います。

品種	剤型	薬剤	希釈倍数
全品種	粉剤	アプロードモンカットスタークルF粉剤DL	4kg
	液剤	アプロードモンカットエアー	1000倍
		スタークル顆粒水溶剤	2000倍
ツクシホマレなど (葉色が濃くコブノメイガの被害がある場合)	粉剤	アプロードロムダンモンカットF粉剤DL	4kg
	液剤	アプロードロムダンモンカットエアー	750倍

液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

※ アプロード剤に対するトビイロウンカの感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

注)ウンカ等への効果を高めるため、防除作業はほ場に水をためた状態で行います。

2 補正防除

葉いもちが発生している場合、穂いもちへの移行が懸念されます。穂いもちの防除は出穂直前が効果的です。いもち病が発生しているほ場では、以下のとおり補正防除を行います。

「元気つくし」はいもち病に弱いため、特に注意してほ場を観察しましょう。

品種	防除時期	薬剤 (全品種とも粉・液いずれか)	希釈倍数
元気つくし	8月16～19日頃	(粉剤)	4kg/10a
ヒノヒカリ	8月22～25日頃	ブラシントレボン粉剤DL	
ツクシホマレ	8月29日～ 9月1日頃	(液剤) ブラシントレボン水和剤	500倍

液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!